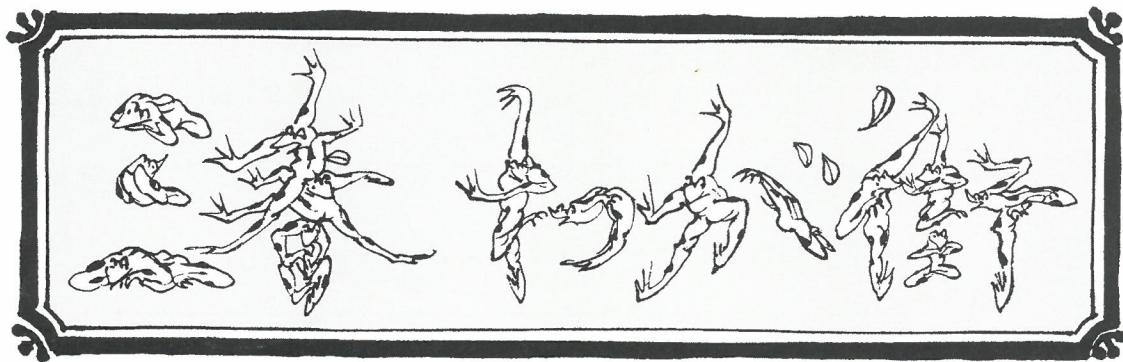




■コミュニティだより

VOL. 22

特集 その「ごみ」待った!!

出すまえに見直そうもう一度

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報委員会

顔

音楽と共に五十余年

郡司 好男さん（師範場）

♪よみがえった 三春町民歌

毎朝六時に防災行政無線から流れる『風さわやかにわたる山川』。ふと口ずさみたくなる三春町民歌の作者、郡司好男さんを師範場のご自宅に訪問しました。

町民歌は、昭和三十一年に公募された詞（作詞者は当時三春保健所職員の遠藤年一さんです）に郡司さんがいつでもどこでも、誰でも歌いやすく覚えやすい『三春の歌』にしたいとの思いで作曲しました。



大正13年3月30日生まれ（74歳）
高校音楽教諭 昭和21年～59年（38年間）
（本宮、安達、田村、須賀川、安積高校などで教鞭をとる）
現役職 三春文化団体連絡協議会長、福島県吹奏楽連顧問、
田村高校同窓会副会長等

当初は役場のチャイムで流す予定が、機器の故障で実現されず、主に町主催の行事などで歌われていました。

平成七年に三春町会場で開催した国民体育大会アーチエリー競技で、町民歌が吹奏楽で演奏され、ここで改めてその良さが見直され、町民歌は毎朝、町内に流れるようになりました。

音楽を志す

郡司さんは、幼なじみの大夫人と長男家族（四人）の六人でくらしています。

「三春は都会的なところ、田舎的なところ、自然、人づきあい、これらがいいあんばいで、大変気に入っています。」

小学二年の時、父親の転勤で生まれ故郷の会津坂下町を離れ、それから三春に永住するようになりました。

旧制中学時代はソフトテニスで全国大会出場するほどのスポーツマンで、将来の進路として体育も考えましたが、中学四年の時、お姉さんが弾くオルガンに魅せられ、音楽を人生の伴侶とすることにしました。

また、子供の頃、人前で話すのが苦手で、うまく話をしてほしいことから音楽を選ぶことにしました。

大学を目指し、三春小学校のピアノを借り、始業前と放課後の練習、福島まで通った猛特訓を受け、（現）武蔵野音大へと進み、途中、兵役の期間もありましたが、音楽を志しました。

音楽の原点

「音楽はまず自分が感動しなければ、人を感動させることはできない。たゆまざる練習、努力することが必要です」

郡司さんは音楽鑑賞の授業時間に、同じ曲目を、違った演奏者で聞かせ、演奏者によっての違いを知ることによく取り入れ、これが生徒にとつて大変勉強になったそうです。

また、音楽に優劣をつけるコンクールのあり方に疑問をもっておられました。

「音楽は人それぞれのとらえ方が違う」。この辺に郡司さんの音楽の原点がありそうです。

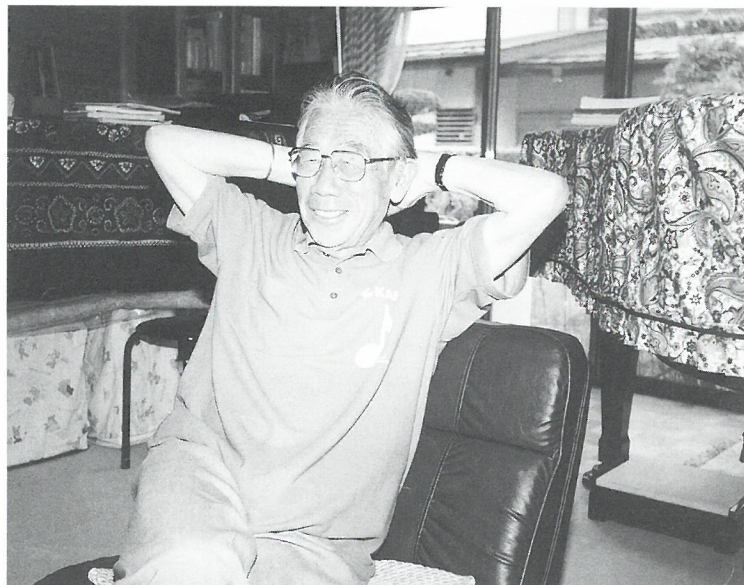
人とふれあう

音楽活動

郡司さんは、さまざまな学校で校歌を作曲したり、指揮者としても活動しています。

また、「ミハルコーラス」「昔懐かしの歌を歌おう会」の指導者としても活躍されており、

さらに、月二回程度、福祉会館でお年寄りの方と一



♪がプリントされた、お気に入りのポロシャツを着て、くつろぐ郡司さん。息子さんからのプレゼントとのこと。「大変お似合いですね」

三春町民歌

栄えよ 三春

作詞 遠藤 年一
作曲 郡司 好男

一 風さわやかにわたる山川

この地を愛し
この丘を開き
産業興す道を伸ばそう
ああ栄えゆくわが三春町

二 世々つたえ来て薫る歴史の

その時を偲び
その幸に映えて
明るい文化の花を咲かそう
ああ栄えゆくわが三春町

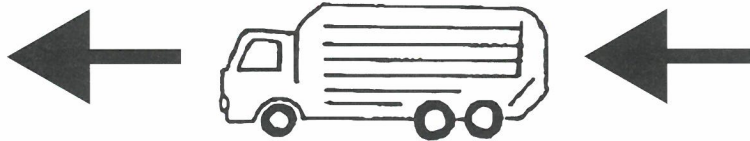
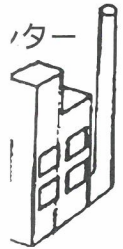
三 雲うるわしく仰ぐ城跡

あの山を誇り
あの空を讀み
平和な理想の郷を築こう
ああ栄えゆくわが三春町



一度

三春町では、平成7年10月より資源ごみの分別収集が始まりました。続いて、平成8年にはダイオキシンが国の基準値を上回ったことから、食品のトレー・ラップ類を燃えるごみより、はずすことになりました。そして平成10年4月には、プラスチックごみは一つの独立したごみになり、ピンクの袋に入れるようになりました。普段、私たちが何気なく出しているごみは、どのように処分されていくのでしょうか。今回の特集で、ごみの行方を追いかけてみました。



三春町内のごみ集積所の数
約320ヶ所
資源ごみ、燃えないごみの集積所
約250ヶ所
ごみ処理にかかる費用
1トンあたり36,500円

【小ごみ】



せともの、キャップ、油のついたビン、靴、カバン、傘、小型家電品、雑貨品、玩具、文具、アルミホイル、乾燥剤、スプレー缶など

【かしいもの】

【粗大ごみ】



(予約・有料制)

【指定袋に入らないもの】

【燃えるごみ】



生ごみ、紙くず、吸いがら、割ばし、紙おむつなど

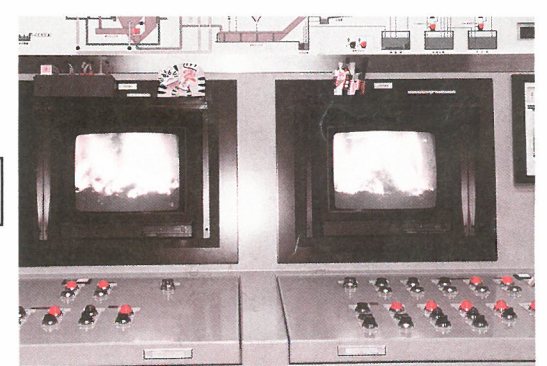
【衛生上、焼却が必要なごみと、素材が紙や木であるもの】

ごみのピ
機械に押
圧力をか
ロック状



▲私たちが出した燃えないごみの袋は、一度全部開けられて分別されることを知っていましたか。その作業は全て手作業。危険物や有害ごみなども混じっており、とてもたいへんな仕事です。

各種業者へ処理を依頼



▲焼却炉の中を監視するモニター画面

ダイオキシン・ミニ知識

「地上最強の猛毒」といわれるダイオキシンには、次のような毒性があると指摘されています。

- ・強い急性毒性
- ・慢性毒性（子宮粘膜症など）
- ・発ガン性
- ・奇形を起こす性質
- ・環境ホルモンとしての影響
- ・体内への蓄積

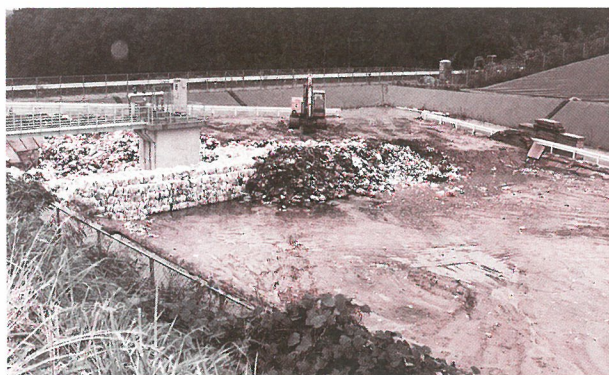
プラスチック類は燃やさないで

町では一括してプラスチック類の焼却禁止を勧めています。ポリエチレンなど燃やしてもダイオキシンが発生しないプラスチックもありますが、ごみの中には塩素分を含む物が多いので、一緒に燃やすとやはりダイオキシンが発生すると言われています。材質別に分別することは困難ですので、プラスチック類は燃やさないことが賢明です。

機械でこなごなにくだきます

鉄くず

業者へ
処理
依頼



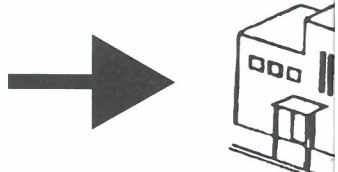
▲平成10年夏に完成した最終処分埋立場。焼却灰や不燃物はここに埋立てられます。

て感じたこと
どは、新聞で包
ないで直接指定
たまものものが
して別に出す。
うを入れない。
出さない。
せとものや鍋な
燃えるごみとし
別に従うこと」
別し、困ったと
燃えないごみ」

特集

その「ごみ」待った —— 出すまえに見直そう もう

清掃センターを見学してみよう
・電話予約が必要です
・3～4人くらいまとまれば見学OKです。
・連絡先（生活環境課・清掃センター）
TEL 62-2900



【有害ごみ】

乾電池（ボタン型電池、充電式電池を除く）、
蛍光灯、水銀体温計、朱肉
↓
薬品処理の上、コンクリート埋立されます

【資源ごみ】



びん、缶、古新聞、
雑誌、ダンボール、
古着、牛乳パック、
ペットボトル、トレー・
発泡スチロール（白色無地）
など

【プラスチックごみ】



【プラスチックだけで作られたもの】

【燃えやすいごみ】



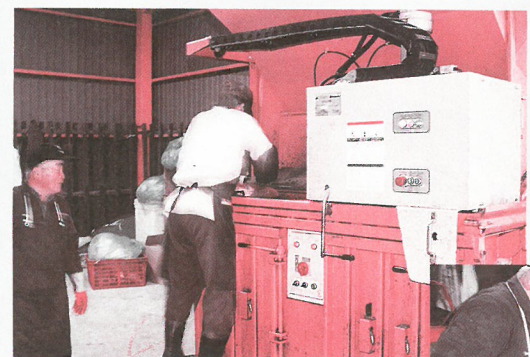
【再資源化がむずかしいもの】

この枠で囲まれたところが手作業の部分です。
取材を通して、とても多くの人手や費用がかかっ
ているのに気がつきました。
ごみを出したらそれで終わりではないんですね。



ビン類も一個ずつ確かめな
がら処理されています。

▲ペットボトルなどのキャ
ップをつけたままのものが多
いのが意外でした。
つけたまま出すと、写真の
ようにひとつずつ手作業では
ずさなければいけません。
キャップは、はずして出し
ましょう。



◀プラスチックご
みの袋は、手で
し込んで1トンの
重さでプレスされ
てになります。



◀缶やペットボトルは
プレスされ成形されて
業者へ渡ります。

ストックヤード▶
プラスチックごみをプレ
スしたものはここに積み
上げられ保管されます
埋立地のゴムシートの保
護材としても利用されて
います。



現場取材メモ

ごみ処理の現場で取材をし

- ・瀬戸物や割れたガラスな
んだり、袋に入れたりし
袋に入れる。
- ・おもちゃの乾電池を入れ
多い。乾電池は有害ごみと
して出す。
- ・缶の中にたばこの吸いが
入ったまま出す。
- ・ビンや缶のコンテナに、
ど別の物を入れない。
- ・紙おむつは、便を捨てて
出す。

ひとことで言えば「町の規
則が大切です。
ポスターなどを良く見て分
きは電話してみよう。
どうしても迷ったときには「
として出しましょう。」

●まとめ

ごみの行方を追ってみると、まだまだごみの分別がいまいだということに気づきました。
一人一人が「自分ひとりくらい…」と思わず、「自分だけでも」という意識を持つことで
ごみの分別が浸透していくのではないのでしょうか。
ごみが燃えて出る「ダイオキシン」などの環境問題も避けては通れません。意識すれば私
たちにできることがたくさんあります。
ごみを少なくして環境を良くし、子供たちに胸をはってきれいな三春町を渡したいものです。

紙とエンピツをもって
歩いてみよう

町名石柱

ガイドマップ
(街並部会事業)

法蔵寺は、町内で最も古い古刹です。念仏修行の道場であった為、その門前は道場町と呼ばれました。

道場町



拓本を楽しもう！
石柱の頭の左はしに、紙をあててエンピツでこすってみて下さい。浅彫りした文字が現れます。



町内の五ヶ所に

町名石柱が
できました。



お城坂

この坂の上には、戦国時代の堅堀の跡が残っています。江戸時代には坂を挟んで重臣の屋敷がありました。



御免町

戦国大名田村氏の菩提寺福聚寺は、寺への駆け込みを御免され門前が御免町と呼ばれました。



桜谷

歴史民俗資料館（旧武家屋敷）の大きなしだれ桜の古木を中心に、谷のあちらこちらで桜の花が咲き競います。



化粧坂

岩城街道から城下に入る処に井戸があり人々が化粧を直した事から化粧坂（けわいざか）と呼ばれました。

「町名石柱事業について」
街並部会長 根本 忠
この事業は、歴史の町三春町の街並に、何か潤いのあるものをと、今から十五年前頃から街並部会で企画されたものです。
最近になって大町の街路が整備されるに伴い、今がチャンスと具体化に向けて部会で勉強、研修をして検討を重ねました。
そして今年の桜の開花に間に合うようにと、町内五ヶ所に石柱を完成することができました。
石にこだわって、デザインにこだわった「町名石柱」をさがして、ぜひ歩いてみてください。

編集後記

◆ごみについて特集するにあたり、広報委員会では、清掃センターの皆様にお話を聞いたり、最終処分場を見学したりして、ごみの現状について学習しました。集積所にごみを出す、清々とした気分になっていましたが、その後のごみ処理に携わる人たちの作業は、思っていた以上に大変であることがわかりました。
一人一人のちよつとした心配りでごみを出したら、もっときれいな町になると思います。（山内節子）
◆郡司さんの取材は、全国高校野球大会の決勝戦が午後一時からの日でした。午前十時に訪問し、闊達でリズムカルなお話などを聞き、つい時を忘れていました。
十二時三十分頃、郡司さんが急にそわそわしだし、「今日は決勝戦だ」……。郡司さんの趣味はスポーツ観戦！でした。
一同あわてて退散。季節が夏から秋に移るひとときでした。（金子豊治朗）
▼新しい広報委員として、山内節子さん（清水）が加わりました。

コミュニティだより
「三春わが街」第二十二号
発行日 平成十年十一月十五日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報委員会
三春町字大町一七八
(六二)三九八八
題字 渡辺 弥七氏